

特集：「オーディオ・ホームシアター展 2015」より

“オーディオ・ホームシアター展 2015” 見聞記

村瀬 孝矢

オーディオ・ホームシアター展 2015「音展」が10月16日から18日の3日間、昨年と同じ東京お台場のTIME 24ビルで開かれた。この会場の使用は今回で3回目、ゆりかもめ「テレコムセンター前」の傍だからアクセス性も良く、新橋から30分ほどで着く。その会場は1階～3階、18階と、前回と同じ規模のかなり広いスペースを使っの「音展」だ。

この会場の良さはいつも感じるのだが、試聴用デモブースがほぼ密閉された空間になることだ。数社が合同で展示するブースもあるが、空間も広く、時間を区切った音出しが重ならない工夫もあり、試聴デモに影響の少ないのが好ましい。じっくりと目的コンポの音を試聴、確認したい来場者の希望に応えてくれる環境が備わっているのである。

ちなみに今回の出展者数は92社・団体。ほぼ昨年並みだから、「ハイレゾ」が、訴求から展開という段階に入ったことを物語る。(入場料は無料、登録制)

今年の「音展」テーマは「聴くぞ、ハイレゾ!」、まさにハイレゾをソースの主演にして、どんな鑑賞法があるか、ヘッドフォンからコンパクトオーディオ、マニアックコンポまで、一挙に試聴できる、それが「音展」であるという訴求である。ハイレゾ一色に染まった昨年の「ハイレゾ!音が違う」から、鑑賞法へとコマを進めたというわけだ。



会場入口の看板



1階アトリウムでのハイレゾ機器展示

会場の配置から受け取れることのできる強い印象は、“より音を聴いてもらう”に特化していることだろうか。イベントと称するセミナー関連が、展示ブースより総合的なスペースも広く、また多くて「音展」らしさを発揮しているのである。それは、協会セミナー、専門誌セミナー、出展者セミナー、ホームシアターセミナーと所狭しの状態である。これに人気のある「音のサロン」が加わるのだから、「音展」へ出かけても損はなしである。そこではハイレゾソースを迎えたオーディオコンポなど、これをどう導入する、どう料理する、の考えを、会場を訪ればまとめられるかも知れないのだから。3日間の会期中、ほぼこれで埋められるから出かける前にしっかり計画を立てないと聴き漏らすこともあろうから要注意である。ちなみに一部ブースでじっくりと試聴を体験してみたが、即席の会場にもかかわらず音を比較できたことは、ハイレゾソースの

お陰かも知れないと分かったのだった。



Hall 1：協会セミナー「レコーディング・エンジニアから見たハイレゾリューション」
(講演者：JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント サウンドプロデューサー高田英男氏)



202 研修室：「聴けば分かる！ハイレゾ比較試聴セミナー」
(講演者：日本オーディオ協会・ネットワークオーディオ委員会メンバー)

ついでながら各社のブースも単にコンポ等を展示するのではなく、その音をしっかりと試聴して欲しいという意欲が見られたのも収穫である。これこそ音出しに障害の少ない会場ならではの、所望メーカーブースに居座って試聴しても決して損はない。

このメーカーブースでは昨年から参加した「テクニクス」が元気で注目されている。



テクニクス試聴室（写真左）とパナソニックブース（写真右）

他にパナソニックブースもあるという力の入れようなのだ。他にこのような独立ブースを設けたメーカーは、ソニー、JVCケンウッド、ヤマハ、ティアック、クリプトンなどの各社であった。



ソニー



JVCケンウッド



ヤマハ



ティアック



クリプトン



FOCAL 等、輸入コンポを扱ったブース

なお、ハイレゾソース（音源）に関する情報を得るために「音展」を訪れることも良いだろう。ソフトの配信を行っている企業も展示しているほか、入手先からソフト内容など様子をたずねれば知識も増えるというもの。それにハイレゾディスクとして唯一の「BD オーディオ」（Blu-ray Disc Audio）ブースもあり、見所もいっぱいだ。このBD オーディオ、BD プレーヤーですぐ再生可能なことを大きな特徴として音楽ファンを惹きつけている。販売済みソフトは 159 枚（90%

程がクラシック曲、ジャズ、他にロックも有り)で、すでに選べる音楽ファイルへと急成長していた。



「BD オーディオ」ブース (写真左) とディスク展示 (写真右)

● デジタルオーディオならではの PC&アクセサリメーカーの参加

ハイレゾオーディオの関心が高い。また、参加もできるということで新しく PC 関連メーカーの積極的な参加が見られるようになったのも特徴だ。特に PC アクセサリの周辺メーカーが多く参入してきており、あの Wi-Fi ルーターや NAS で知られるメルコ「DELA」、アイ・オー・データ「fidata」など新しいブランドでハイレゾコンポに進出してきたのだった。アイ・オー・データもメルコに遅れたものの、コンポへの取り組みで遜色のない充実ぶりをみせてくれた。ハイレゾソフトのようにネット機器を必要とするオーディオでは、彼らの通信技術が貢献すると思ったのである。



メルコは Hall 3 に出展



アイ・オー・データは個別ブースでのデモ

● ホームシアターはドルビーアトモスと、8K 映像と 22.2ch 音場のデモ

ホームシアターはオーディオ復活の陰で押され気味の感じだった。ブースは 2 つほどになってしまったが、昨年からはまった「ドルビーアトモス」に対応する AV アンプと、その AV サラウンド再生に関心が高かった。なお 4K 関連では各社が 4K 液晶テレビを出展、ソニー、パナソニック、シャープが揃って並び、東芝も発表の遅れを挽回すべくセミナー出展と頑張った。

ホームシアターのデモはスクリーンこそ小さいものの、ドルビーアトモスサラウンドを会場設営してデモしたことが目立った。隣りでは各社が AV アンプのアトモスコーナーを設けて盛り上

げる。なお、アトモサラウンドを使用した HDR（ハイダイナミックレンジ）セミナーや、リスニング音響の話と硬派なセミナーになっていた。また、テレビ朝日放送が SHV（スーパーハイビジョン）の 22.2ch 収録しているというデモが注目された。



各社の 4K 液晶テレビ



ドルビーアトモサラウンドのデモ会場



NHK の 8K+22.2ch デモ



ホームシアターセミナー会場での東芝の発表（写真左）とテレビ朝日の 22.2ch デモ（写真右）

この SHV は 3 階で NHK が 8K 映像と 22.2ch 音響のデモを行って、次世代 A&V を提案したのが目に留まった。会場の規模はそれほど大きくないから迫力の面で物足りなさはあったものの、初めて触れる方は感動すると思う。

このようにひと頃のようなホームシアターに勢いは感じられないが、絵と音の描く世界は他に置きかえられない楽しさと感動と与えるもの。ぜひとも高画質と高音質の A&V 世界を狙ってい

ただきたい。

● 席が空かない音のサロンの高い人気

この会場はいまや「音展」の名物出し物である。有名コンポから定番コンポ、実力コンポ、さらにここだけに登場するコンポと、協会の努力の結晶ものでもある。リクエストソースをじっくり聴かせるが、このコンセプトのようでこれが好まれている。しかも新作コンポの直接比較の試聴もされると、長時間の居座りもまったく苦にならないというオーディオ観賞会である。ここを訪れば「あなたもオーディオ通になれる」のだった。ただし良好な試聴環境を望むのであれば、席の確保にそれなりの努力を要する。

実は同じような催しを1階「Hall 1」でも行うのだが、連日&連続運営はこちら「音のサロン」の方で、それだけオーディオへの熱さが違うというところ。だから時間が許す限り音のサロンの訪問をお勧めしたい。



満席の「音のサロン」会場



人気コーナー「価格帯別コンポの魅力」

● 人気の工作教室

土曜日だけの催しだが、これも名物になった工作教室はしっかりと支持されたセミナーである。このところ出版社がスピーカーやアンプの「おまけ」を付けた出版物を発行するようになり、彼らの出展が盛んで、これが賑わったのも新しい動きである。

工作教室は実費をもらう有料イベントとなっているが、まさに実費の割安さもあり、申込みされる方が多かったと聞く。この工作教室で次につながるオーディオファンが増えてくれればと考えると楽しくなる。なお、各出版社（専門誌）の独自のセミナーも「Hall 1」で連日開催され賑わっていた。



工作教室



Hall 1 出版社セミナー

● **カーオーディオの撤退**

そして今回、ついにカーオーディオの出展が無くなった。昨年までパイオニアと三菱の2社が実車を持ち込んでデモを行っていたが、両社ともに見合わせたのは残念なこと。これはカーオーディオのハイレゾ対応の遅れ等が影響したかも知れない。昨年、ここで期待されるとしたのだが、カーナビとの連携はあるものの純粋なカーオーディオコンポの出遅れ、また USB メモリ経由などという使い方も好まれないのかも知れない。それに会場を訪れる年齢層とのギャップも気にしたのだろうか。